

# アスリートを対象としたインタビューのディスコース分析

武田勇美(人文・文化学群 人文学類) 指導教員:田川拓海

## 研究の目的

本稿では、スポーツ報道における中立性の在り方とドラマ的な工夫がどのように共存しているのかを語彙、表現から言語学的に考察し、これと並行して、ジェンダーによる言説の違いについても併せて論じる。

## 方法

スポーツ報道のメディアの言説を用いて、ディスコース分析を行う。メディア・ディスコース分析においては、メディアの立場は中立的か否かに焦点がおかれる傾向にあるが、中村(1995)らはスポーツ報道では「ドラマ性」、「物語性」といった要素が求められることを主張している。そこで、本研究では、実際に中村らが主張するように中立性に反する言説がスポーツ報道に現れるのか否かを観察し、観察されるなら、中立性に反する言説内で何を行っているのかを考察する。また同時に、スポーツ報道の言語的な特徴を分析、解説することを目指す。そのために、以下のリサーチクエスチョンを設けた。

### リサーチクエスチョン

RQ1: スポーツ報道において中立性は満たされていないのか。満たされていないのなら、どのように中立性が破られているのか。

RQ2: スポーツ報道の言説は対象となるアスリートの性別によって差が見られるのか。差が見られるのならその差はどのようなものか。

分析には、キーワード抽出ソフト

『EKWORDS(<http://www.djsoft.co.jp/products/ekwords.html>)』を使用し、上記データの書き起こしから各アスリートにおいて、使用

頻度の高い語彙と特有の語彙を算出する。算出した語彙群を参考にし、スポーツ報道に現れる特徴的な言語表現を取り上げ、記述・分析を行う。また、記述に当たって、Gail Jeffersonによる転写システムについてまとめた西阪 et al. (2007-2008)による表記方法を一部利用する

## 結果

RQ1,2 に関して以下の結果が得られた。

RQ1 に関して、本データでは中立性が満たされていない発話がいくつか観察され、中立性の破られ方としては、選手への評価、賞賛、などポジティブ・ポライトネスに該当する発話行為が多かった。これは、選手の内面を聞きだしたいという記者の考えから、ネガティブ・フェイスへの負担のために、ポライトネスを使用する必要性に迫られるためだと考えられる。つまり、中村(1995)の主張「スポーツ報道はドラマ性を求めるために、人物の内面に迫る」を表した結果である。

また、中立性を破る表現として多く観察された「動詞「思う」」に関する考察から、選手の発話に物語的な要素を加えようとする記者の発話上の工夫が観察できた。アスリートの発話に物語性を加えようという、同じく中村の主張「スポーツ報道には物語性が求められる」を示唆する結果である。しかしそれと同時に、この物語は記者の考えを反映した物語であるため、誘導的な側面も持ち合わせ、中立性から大きく外れた発話行為でもある。ゆえに、スポーツ報道においてはメディアに求められる中立性以上にドラマ性が求められる傾向にあり、そのために中立性が破られていると考えることができる。

RQ2 に関して、本データにおいても対象の性別によって差が観察された。RQ1 を調べるうえで現れた中立性に違反する表現は、女性を対象とした場合のほうが多く観察され、これらは内面への接近が女性を対象とした場合のほうが顕著なためである。理由としては、女性に対しては未来的な質問が多くされる傾向にあり、フェイスへの負担が大きいためだと考えられるが、そもそも未来的な質問が多いのは女性の場合、現役生活が終われば、結婚や主婦など家庭的な要素が求められるためだと考察できる。よって、大原(2007)の主張「男性は仕事、女性は家庭のジェンダーバイアスがメディアに存在する」のために、中立性への違反が女性を対象とした場合に多く観察されたのだと考えることができる。

また、男性と女性を描写する語彙について比べた場合、男性は事実的な側面から、女性は内面や他者から描写されることが多かった。ポライトネスの使用頻度が女性のほうが多いため、内面からの描写も多いと考えられるが、結果的に女性のほうが人となりを描こうとする傾向が大きく表れ、より親しみやすい人物として描写されている。

## 英文解説

People require the news media be neutral. Therefore, the news media has to make an effort to remove subjectivity, and the discourse analysis researches investigate whether the speech in the media is neutral or not. These analyses have been tried in the field mainly politics and society. However, previous studies point out that in the field of Japanese sports, another viewpoint is required for the news media. That is the drama. Japanese sports media think that the reports of them must be impressive and exciting. They arise a problem that Japanese sports media have conflicting elements which be required, they are the neutrality and drama. This paper researches the state of speech spoken at the retiring press conference of athletes in the Japanese sports media at the viewpoint of linguistics. Specifically, this paper researches the gender difference of Japanese sports media's discourses because neutral of gender is one of the factors that people demand in all of fields. This paper shows that Japanese sports media tend to focus more on drama than neutrality and this tendency be more often observed when the athlete is a woman.